

古河にて桃の花を楽しむ!

●桃の花咲く古河を味わう旅・その1

今日30日(日)は、久喜麗和会と春日部地区浦高会の合同企画で「春の小旅行・桃の花咲く古河を味わう」でした。天気予報では時々横殴りの雨でした。が、春日部駅東口をバスでスタートする朝7時50分の時点では雨は落ちていませんでした。春日部駅からは14人、久喜駅東口から7人の合計21人での旅となりました。

9時10分に古河総合公園に到着しました。昨日、古河麗和会の遠藤事務局長さんからご連絡いただいたとおり、桃の



開花状況は4~5割といったところでしょうか。久喜麗和会の奥貫会長のご案内で園内を散策しました【写真①②】。

江戸時代の藩主・土井利勝が桃の栽培を奨励したことがきっかけで桃が古河の地に植えられたのですが、昭和50年にこの総合公園を整備するにあたり、



2,000本の桃林ができあがったそうです。ここの桃は花を鑑賞する花桃(八重、写真③)で、実を楽しむ桃は花が一重だそうです。

二週間前に下見で訪れた時には固かった苔も、ここ数日の暖かさでグンと開き、蓮池の周りでは濃淡のピンクや白などさまざまな色合いが楽しめました【写真④⑤】。



蓮池を回ったところで9時40分、広場では露天の出店が賑やかな音楽を流しています。奥貫さんのお話では、花付きが悪くなった老木や病気にかかった木々は伐採していかないとならないそうで、若木も目立ちました。



続いて私たちは御所沼を挟んで対岸にある「古河公方館跡」を目指します【写真⑥】。この地は、御所沼に飛び出た半島

の中腹部分で、隣接して民家園があります。林を抜けた館跡には石碑と看板だけが残っています【写真右⑦】。雨が降ってきました。10時5分に公園をあとに次の目的地に…

